

# 参加申込書 第55回 ヘルンをたたえる 青少年スピーチコンテスト

フリガナ  
氏名

---

ローマ字  
学年

---

題名 『暗唱読本』のページ

---

WEBサイトにおける音声または動画の公開に

同意する  同意しない   
(該当する方を○で囲んでください)

添付書類

あり  なし   
(該当する方を○で囲んでください)

特に希望すること(発表時刻など)

- ◆学校を通じてお申し込みください。
- ◆新型コロナウイルス対策のため、参加資格を山陰両県在住者に限定します。

フリガナ  
氏名

---

ローマ字  
学年

---

題名 『暗唱読本』のページ

---

WEBサイトにおける音声または動画の公開に

同意する  同意しない   
(該当する方を○で囲んでください)

添付書類

あり  なし   
(該当する方を○で囲んでください)

上記のとおり参加を申し込みます。

所在地 〒 - -

令和3年 月 日

学校名

電話番号 - -

学校長氏名 印 連絡先(指導教師名)

申込先  
松江市観光振興部観光文化課文化係  
〒690-8540 島根県松江市末次町86番地  
TEL: 0852-55-5517 FAX: 0852-55-5634  
E-mail: bunka-kakari@city.matsue.lg.jp

申込締切  
令和3年 8月19日[木]必着



『改訂 新・小泉八雲暗唱読本』

本コンテストで使用する  
『改訂 新・小泉八雲暗唱読本』(八雲会発行)  
定価 1,500円(送料別)

参考のために、過去の優秀者のスピーチを  
収録したCDを用意しています。  
1枚300円(送料別)

購入を希望される方は、松江市観光振興部観光文化  
課文化係(TEL:0852-55-5517)までご連絡ください。

# 第55回 ヘルンをたたえる 青少年スピーチ コンテスト

2021年  
9月19日[日]  
松江市  
総合文化センター

松江国際文化  
観光都市  
70周年  
記念事業

## 出場者募集のご案内

新型コロナウイルス  
対策のため、参加資格を  
山陰両県在住者  
に限定します。



小泉清(ヘルン像)  
(小泉八雲記念館蔵)

## 55<sup>th</sup> Young Persons' Recitation Contest in Honor of Lafcadio Hearn

Sunday, September 19, 2021 General Culture Center of Matsue City

新型コロナウイルス感染症の状況により、中止または内容が変更になる場合があります。

There is probably not one of the multitudinous temples of Matsue which has not some marvelous tradition attached to it; each of the districts has many legends; and I think that each of the thirty-three streets has its own special ghost story. Of these ghost stories I cite two specimens: they are quite representative of one variety of Japanese folklore.

→ 暗唱作品の例(全文)  
小泉八雲の作品を、本コンテストの発表時間である3分以上5分以内で暗唱できるよう編集したものです。

Near to the Fu-mon-in temple, which is in the northeastern quarter, there is a bridge called *Adzuki-togi-bashi*, or The Bridge of the Washing of Peas. For it was said in other years that nightly a phantom woman sat beneath that bridge washing phantom peas. There is an exquisite Japanese iris-flower, of rainbow-violet color, which flower is named *kaki-tsubata*; and there is a song about that

flower called *Kaki-tsubata-no-uta*. Now this song must never be sung near the *Adzuki-togi-bashi*, because, for some strange reason which seems to have been forgotten, the ghosts haunting that place become so angry upon hearing it that to sing it there is to expose one's self to the most frightful calamities. There was once a *samurai* who feared nothing. One night went to that bridge and loudly sang the song. No ghost appearing. So he laughed and went home. At the gate of his house he met a beautiful tall woman whom he had never seen before, and she presented him with a lacquered box—*fumi-bako*—such as women keep their letters in. He bowed to her in his knightly way; but she said, "I am only the servant,—this is my mistress's gift," and vanished out of his sight. Opening the box, he saw the bleeding head of a young child. Entering his house, he found upon the floor of the guest-room the dead body of his own infant son with the head torn off.

Of the cemetery Dai-Oji, which is in the street called Nakabaramachi, this story is told:—In Nakabaramachi there is an *ameya*, or little shop in which *midzu-ame* is sold. It is given to children when milk cannot be obtained for them. Every night at a late hour there came to that shop a very pale woman, all in white, to buy *midzu-ame*. The *ame*-seller wondered that she was so thin and pale, and often questioned her kindly; but she answered nothing. At last one night he followed her, out of curiosity. She went to the cemetery; and he became afraid and returned.

The next night the woman came again, but bought no *midzu-ame*, and only beckoned to the man to go with her. He followed her, with friends, into the cemetery. She walked to a certain tomb, and there disappeared; and they heard, under the ground, the crying of a child. Opening the tomb, they saw within it, the corpse of the woman who nightly visited the *ameya*, with a living infant, laughing to see the lantern light, and beside the infant a little cup of *midzu-ame*. For the mother had been prematurely buried; the child was born in the tomb, and the ghost of the mother had thus provided for it—love being stronger than death.

—“Two Legends in Matsue”  
『改訂 新・小泉八雲暗唱読本』(八雲会)より

# 英語で楽しむ小泉八雲(ヘルン、ラフカディオ・ハーン)の世界



第55回 ヘルンをたたえる

## 青少年スピーチコンテスト 募集要項

### 1. 趣旨

松江を世界に紹介した文豪小泉八雲(ラフカディオ・ハーン、ヘルン)の偉業をたたえ、八雲の作品を暗唱するコンテストを開催します。八雲の美しい英文に触れ、青少年の英語の表現力向上に資し、国際理解と親善に貢献することを目的とします。

### 2. 開催日時

令和3年9月19日(日) 9時から18時まで

- 開催時間は、参加者数により変更する場合があります。

### 3. 開催場所

松江市総合文化センター(松江市西津田6丁目5番44号)

### 4. 応募規定

#### ①参加資格

山陰両県在住者

ジュニアの部——小学生及び中学生

シニアの部——高校生(高等専門学校在学者は3年生まで)

- 両部門とも1校2名以内。小中一貫校については、小学生・中学生各2名以内。

#### ②スピーチの内容

八雲の英文の作品(『改訂 新・小泉八雲暗唱読本』)の暗唱発表。

- 3分以上5分以内
- 発表内容は、原則として、原文のままとします。
- やむを得ず発表者の学習進度に応じて原文の書き換えが必要な場合は、最低限度にとどめ、原文との違いがわかるように、見え消しで記入した暗唱文を5部添付して申し込んでください(『改訂 新・小泉八雲暗唱読本』の文と同一の場合は、暗唱文の添付は不要です)。
- 暗唱発表の前後に英語でコメントを付け加えて暗唱する場合は、暗唱文を5部添付して申し込んでください。
- 申し込み後、発表内容に変更が生じたときは、8月27日(金)までに改めて5部お届けください。

#### ③申込方法

所定の参加申込書に氏名、学年、題名を明記し、学校を通じて申し込んでください。

- 発表時刻に希望があれば、参加申込書に記載してください。なお、発表順は主催者において決定し、開催日10日前にその他の連絡事項とともに通知します。

#### ④申込締切

令和3年8月19日(木) 必着

### 5. 審査

発音・イントネーション・ストレス・リズム等の言語(英語)要素とともに、国際的視野に立ったプレゼンテーション力全般について審査します。

### 6. 賞

松江市長賞(賞状・楯・賞品)——各部門1名  
松江教育委員会教育長賞(賞状・楯・賞品)——各部門1名  
八雲会長賞(賞状・楯・賞品)——各部門1名  
JICE 理事長賞(賞状・楯・賞品)——各部門1名  
山陰日本アイルランド協会会長賞(賞状・楯・賞品)——各部門1名  
八雲会奨励賞(賞状・賞品)——若干名

#### 【特別賞】

へるん賞(賞状・楯)——ジュニアの部1名(松江市長賞受賞者)  
アイルランド大使賞(賞状・楯)——シニアの部1名(松江市長賞受賞者)

### 7. 応募上の注意

応募の際は、以下について同意のうえ申し込んでください。

- ①入賞者の氏名・写真は、主催者等の広報紙やWEBサイトで紹介されること。また、申し込みの際同意の得られた方については、音声または動画がWEBサイトで公開されること。
- ②入賞者のスピーチは、録音・CD化し、当スピーチコンテストの学習資料として販売されること。
- ③本スピーチコンテストについての質問は、ホームページにおいて回答し公開されること。

### 8. 申込・問い合わせ先

松江市観光振興部観光文化課文化係  
〒690-8540 島根県松江市末次町86番地  
TEL: 0852-55-5517 FAX: 0852-55-5634  
E-mail: bunka-kakari@city.matsue.lg.jp  
ホームページ: <http://www1.city.matsue.shimane.jp/bunka/bunka/speech.html>

### 9. 主催

松江市・松江教育委員会・八雲会

### 10. 後援

アイルランド大使館・JICE・山陰日本アイルランド協会・新宿区・熊本市・焼津市・山陰中央新報社・朝日新聞松江総局・毎日新聞松江支局・読売新聞松江支局・産経新聞社・日本経済新聞社松江支局・中国新聞社・新日本海新聞社・島根日日新聞社・共同通信社松江支局・時事通信社松江支局・NHK松江放送局・TSKさんいん中央テレビ・BSS山陰放送・日本海テレビ・エフエム山陰・山陰ケーブルビジョン・小泉八雲記念館

## 小泉八雲

(ラフカディオ・ハーン)  
**Lafcadio Hearn**

小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)は、1850年6月27日ギリシャのレフカダ島で生まれました。「ラフカディオ」は、この島の名に由来します。父はアイルランド出身のイギリス軍の軍医で、ギリシャ駐屯中にギリシャ人の母と出会いました。2歳の頃、母と一緒にアイルランドに移りましたが、その後両親は離婚し、大叔母に育てられました。

13歳でイングランドの神学校に進みますが、16歳の頃、遊戯中の事故で左目を失明。さらに、養母だった大叔母が破産したことから学校を退学せざるを得なくなりました。

19歳の頃、移民船に乗ってアメリカに渡り、苦労の末、シンシナティとニューオーリンズで新聞記者として活躍します。執筆活動を通して、アメリカで広く知られるようになりました。39歳のとき日本行きを決意し、1890年4月日本の土を踏みます。

8月30日、島根県尋常中学校の英語教師として松江に赴任し、松江の美しい風物や素朴な人情を愛しました。旧松江藩士の娘小泉セツと出会い結婚。塩見縄手の武家屋敷(現在の小泉八雲旧居)で約5か月間暮らしました。

1891年11月、熊本第五高等学校に移り、その後、神戸クロニクル社の勤務を経て、1896年9月から帝国大学(現在の東京大学)講師として、英文学を教えました。その講義は、若い学生の心をとらえて人気がありました。

1904年9月26日、心臓発作で54年の生涯を閉じました。日本についての10数冊の著作は、失われつつある日本の美や心を広く海外に紹介した名作です。

小泉八雲記念館は、八雲の遺品や遺稿を収め、その人と文業を伝えるため1934年に設立されました。

## スピーチコンテストのあゆみ

1966	10.15	第1回	「へるんを讃える全山陰中学英語スピーチコンテスト」を開催 以後、毎年9月26日の命日の前後に開催
1986	9.28	第20回	「ヘルンをたたえる青少年スピーチコンテスト」と改称 対象を20歳未満の青少年に拡大、全山陰という応募地域枠を撤廃 「アイルランド大使賞」新設
1990	10.28	第24回	小泉八雲来日100年記念
1991	9.29	第25回	国際文化観光都市40周年記念
1998	9.27	第32回	「へるん賞」新設
2001	9.23	第35回	国際文化観光都市制定50周年記念
2003	9.23	第37回	「山陰日本アイルランド協会会長賞」新設
2004	9.18	第38回	小泉八雲没後100年記念
2005	9.17	第39回	「財団法人日本国際協力センター理事長賞」新設 (2018年(第52回)より「JICE理事長賞」)
2010	9.26	第44回	小泉八雲来日120年記念
2017	9.24	第51回	日本・アイルランド外交関係樹立60周年記念



小泉家蔵

### 「ヘルン」の由来

小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が島根県尋常中学校へ赴任した際の文書に「Hearn」を「ヘルン」と表記されたのが広まり、当人もそのように呼ばれることを気に入ったことから定着しました。

第53回コンテスト(2019年)  
松江市長賞受賞者による  
スピーチ

